

## 2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 14 日

所属	基盤教育機構	職名	准教授	氏名	藤野和樹
研究課題	大学体育バドミントン授業における競技経験別指導法の開発				
研究キーワード	技能上達、動作解析	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	3. すべての人に健康と福祉を	4. 質の高い教育をみんなに	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>大学体育バドミントン授業受講者におけるオーバーヘッドストロークの動作分析を行った。側方から撮影した動作をもとに、インパクト時の手関節角度、肘関節角度、肩関節角度を算出した。関節角度について競技経験別に一元配置分散分析をおこなった。運動部未経験者は、スマッシュ・クリア・ドロップのフォームが類似しており、その要因として空振りを恐れるために身体に近い位置でインパクトしていることが推察された。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>大学体育バドミントン授業受講者の主観的スキル課題に基づくループリックが主観的恩恵に及ぼす効果，藤野和樹・木内敦詞・八田直紀・升佑二郎・林直樹，体育学研究，2022 年 4 月</p> <p>【学会発表等】</p> <p>学体育バドミントン授業受講者の競技経験がオーバーヘッドストローク動作に及ぼす影響：インパクト時に着目して，藤野和樹・升佑二郎，第 6 回日本バドミントン学会大会，2023 年 3 月</p> <p>3. 主な経費</p> <p>パソコン購入予定であったが、科研費の予算にて執行したため 2022 年度個人研究費は未使用となった。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>【その他の活動】</p> <p>日本バドミントン学会 理事（総務委員会 委員長，研究推進委員会・広報委員会 副委員長）</p> <p>「大学体育スポーツ学研究」編集委員，幹事補佐</p> <p>第 10 回大学体育スポーツ研究フォーラム実行委員</p> <p style="text-align: right;">（本文は 2 ページ以内にまとめること）</p>					